

西海区水産研究所



長崎庁舎外観写真(写真左下:まぐろ飼育研究施設外観)

西海区(せいかいく)水産研究所は東シナ海域から九州西・北岸、日本海西部、南西諸島海域の水産に関する調査研究を担当しています。これらの海域において持続的に漁業資源を利用するための生態と資源の評価・管理に関する研究、調査船などを使って漁場の環境を広く速く正確に把握、予測する技術の開発を進めています。沿岸域や内湾域では、資源を増やすための研究や地域の水産業を振興するための調査研究を行うことが西海区水産研究所の役割です。

長崎庁舎（本所）

〒851-2213 長崎市多以良町1551-8

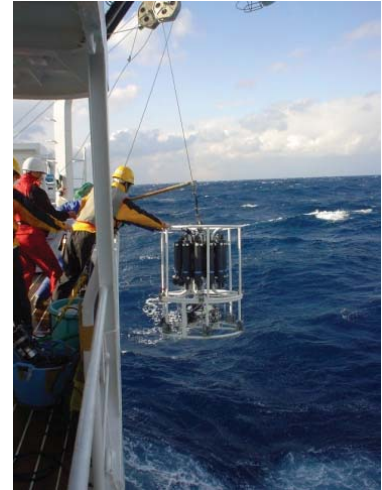
電話 (095)860-1600(代表) FAX (095)850-7767

ホームページ [<http://snf.fra.affrc.go.jp/>] Facebook [<https://www.facebook.com/fra.go.jp/>]

資源海洋部

Fisheries Management and Oceanography Department

資源海洋部は、東シナ海及び東シナ海に接続する海域における水産資源、資源生態及び水産海洋に関する研究開発を行っています。研究の成果は漁業者に役立つ情報として資源評価や漁海況予報として提供されると共に、周辺国とまたがる資源の持続的利用を図るための根拠として活用されています。地球温暖化等、変化する環境の中での水産資源の変動機序の解明などにも取り組んでいます。東シナ海及び接続海域に分布する水産資源の生態評価、管理方策についての研究を行う**浮魚資源グループ**と**底魚資源グループ**、水産資源を取り巻く生態系の構造や機能、餌料環境の研究を行う**生態系変動グループ**、及び水産資源の変動に影響を与える海洋環境のモニタリング、海洋動態・物質循環に関する研究を行う**海洋環境グループ**によって構成されています。



資源生産部

Stock Enhancement and Aquaculture Department

資源生産部は、東シナ海及び周辺海域における増養殖の対象となる水産生物の資源の維持増大、管理、生理及び生態に関する研究開発を行っています。ブリなどの養殖対象種の安定生産に関する研究と技術開発を担当する**魚介類生産グループ**、温暖化等により変遷・衰退する藻場の回復と減少したアワビ類、イセエビなど重要資源の増殖技術開発、高付加価値化を目指したノリの育種、マダイ、ヒラメ、クエ等の資源管理方策を研究する**藻類・沿岸資源管理グループ**によって構成されています。



有明海・八代海漁場環境研究センター

Research Center for Fisheries and Environment in the Ariake and Yatsushiro Bays

有明海・八代海漁場環境研究センターは、有明海及び八代海における漁業及び漁場環境、水産生物の増養殖、生理及び生態に関する研究開発を行っています。有明海・八代海における環境変動の現状把握と生物生産に及ぼす影響評価、自動観測ブイを活用したモニタリングによる赤潮・貧酸素水塊の被害軽減及び発生機構の解明等を担当する**環境保全グループ**、有害赤潮の毒性発現機構の解明と被害軽減技術の開発、アサリ、タイラギ等の二枚貝類資源の回復・増養殖技術の開発等を担当する**資源培養グループ**によって構成されています。



まぐろ増養殖研究センター

Research Center for Tuna Aquaculture

まぐろ増養殖研究センターは、水産研究・教育機構における太平洋クロマグロ等の増養殖に関わる研究開発を実施しています。長崎庁舎のまぐろ飼育研究施設(陸上施設)を用いて、クロマグロ養成親魚からの安定採卵技術の開発を目的に、親魚養成及び成熟・産卵誘導技術に関する研究開発に取り組んでいる**成熟制御グループ**、奄美庁舎の海上施設を用いてクロマグロ養成親魚からの採卵及び陸上施設における人工種苗の量産技術の開発を目的に、安定的種苗生産技術の高度化を目指した研究開発に取り組んでいる**種苗量産グループ**によって構成されています。



亜熱帯研究センター

Research Center for Subtropical Fisheries

亜熱帯研究センターは、亜熱帯・熱帯特有の水産資源に対応した資源管理方策を提案、実施して効果の検証を行っています。また水産有用生物の成育場として重要なサンゴ礁・藻場等の維持・形成機構の解明、さらに亜熱帯海域に生息する付加価値の高い水産資源、特に魚類を中心とした増養殖に関する研究を行っています。八重山諸島周辺沿岸域に分布する重要な水産資源を適切に維持管理するための研究、低次から高次に到る生物群集の生態特性解明や水産有用種の生息環境保全研究に取り組んでいる**沿岸資源生態グループ**、スジアラ、ニホンウナギ、ノコギリガザミ類等の親魚養成、種苗生産及び養殖手法に関する研究を行っている**生産技術グループ**によって構成されています。



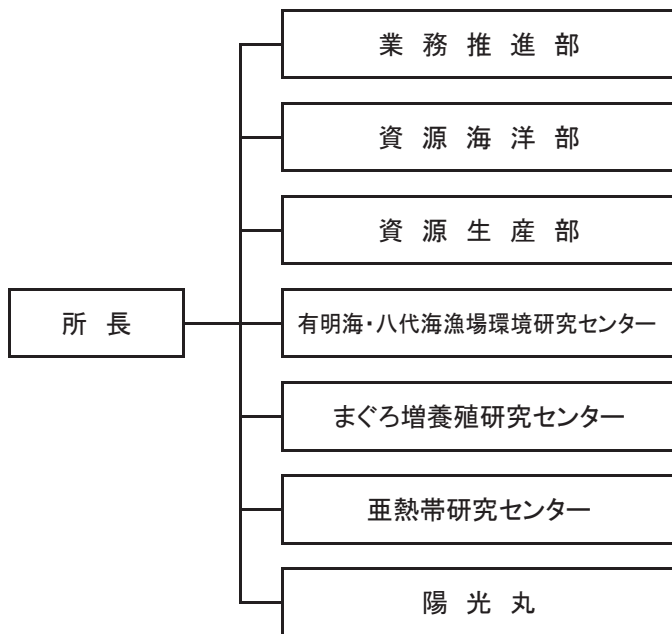
漁業調査船 陽光丸

Fisheries Research Vessel YOKO-MARU

平成22年11月30日に建造された陽光丸は、初代から数えて3代目にあたります。全長は58.6m、総トン数は692トンです。効率的なトロール調査及び精密な海洋観測を可能とし、調査漁具・調査機材等の高度化・ハイテク化を図っています。この調査船は、我が国周辺水域、特に東シナ海とその周辺海域における水産資源の管理、海洋環境の保全、及び水産資源の中国・韓国等との国際共同管理をより迅速かつ効率的、効果的に推進するために、浮魚・底魚類の資源生態調査、卵稚仔調査、大型クラゲ等の生物調査、生物環境調査等を行っています。



組織図



沿革

- 1949年 長崎市丸尾町に水産庁西海区水産研究所を設立
- 1962年 長崎市国分町に新築移転
- 2001年 (独)水産総合研究センター西海区水産研究所として再編
- 2003年 長崎市多以良町に新築移転(現在地)
- 2006年 栽培漁業部八重山栽培漁業センターを統合
- 2008年 標本管理室を設置
- 2011年 五島栽培漁業センター、奄美栽培漁業センターを統合
- 2013年 まぐろ飼育研究施設を増設
- 2016年 独立行政法人水産大学校と統合し、国立研究開発法人水産研究・教育機構として新たに発足

五島庁舎

〒853-0508
長崎県五島市玉之浦町布浦122-7
電話(0959)88-2750
FAX(0959)88-2170



奄美庁舎

〒894-2414
鹿児島県大島郡瀬戸内町大字俵字崎山原 955-5
電話(0997)75-0653
FAX(0997)75-0637



八重山庁舎

〒907-0451
沖縄県石垣市桴海大田148
電話(0980)88-2571
FAX(0980)88-2573

